

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2009年1月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



感情の論理 vol.23 「本物の商品を」

明けましておめでとうございます。

100年に一度の大不況の真っ只中に2009年を迎えました。これまでの不況時と違い、今回は全世界的規模で起こっています。すぐに産業構造上では、川下に位置すると言われている教育産業も他人事ではありません。各地の塾に「お父さんの残業代がなくなった。」「お母さんのパートが切られた。」という声が寄せられています。

私は安易に「ピンチはチャンス」と言うつもりはありません。やはり、ピンチはピンチです。

ただ・・・「これまでのように『株券』や『証券』といった紙切れに投資するよりも、子供という『人』に投資をする方が確実に有効ですよ」という主張を強めるには良い機会だと思っています。そうした主張を塾が地域に発信して、「そうですよね」という共鳴、共感の輪を広げていく・・・いわゆるマスタービジネスへの転換が求められているのでしょう。今年一年の「あなた」のご活躍を大いに期待しています。

さて、本メルマガを発行している「中央教育研究所」主催の教材フェアでの講演で、中国地方を回ってきました。ご参加いただいた方に紙面を借りて御礼申し上げます。その講演の中でお話したことの重要点を、全国の読者とシェアしたいと思います。

かつてバブル景気崩壊後の不況時に伸びた分野として、「100円ショップ」と「ブランドショップ」が、象徴的に取り上げられることがあります。一見、両極端な小売業と思われがちですが、根っ子のところでは共通点があります。

100円ショップに初めて来店したときに、多くの方が思ったはずです。「これで100円?」「これなら充分使える」・・・つまり、100円という価格に関わらず、「本物」を提供したのです。ブランドが支持された根本的な理由も同じです。商品が本物・・・コレです。不況時になると消費者の財布の紐が固くなり、無駄なお金を遣わないようになります。費用対効果に対する意識が高くなります。そうした時、本物の商品を

提供することはビジネスの大前提です。

塾業界でも同じです。まず、「商品が本物か」が問われてくるのです。塾の商品とは言うまでもなく「授業」です。今、全てに先んじて取り組まなくてはならない課題は、授業の質を向上させることです。教材、カリキュラムを見直し、指導教師の研修を実施し、「客」に提供する商品をブラッシュアップすることです。その上で選択すべきは、100円ショップ路線に行くか、ブランドショップ路線に行くかです。

私は中小・個人塾が100円ショップ路線を選択するのはおススメしません。この路線は資本の大きな・・・ランチェスター経営で言うところの「強者」にのみ可能な戦略だと考えています。なぜなら、同じ土俵に乗った瞬間からチキンレースに巻き込まれ、体力の弱い企業では勝てないからです。

いきおい「ブランドショップ路線」を選択することになるのですが、その場合に必要なのが「圧倒的な暗黙知」です。「エルメスのバッグ」は一般のデパートやスーパーでは売っていません。そこに行かなければ入手できない希少性の高い商品です。同様に、「あなたの塾に行かなければ手に入らない商品（授業）」がなければ成立しないのです。

以前からお話しているように、「どこにでもある補習塾」では通用しません。その路線に行くのであれば、「どこにもない補習塾」を作り上げることです。他塾から「さすがにあそこまでは出来ない」と思わせるだけの強烈な「何か」を提供することです。

こうした話をする、「うちにはそんな『何か』が存在しない」と言われる方がいますが、絶対にそんなことはありません。必ず、あなたの気付かない何か、強烈な暗黙知の本種は存在します。なぜなら、それすら保有していない塾は、今の厳しい競争時代、既に淘汰されているはずだからです。

塾業界にとって、今年は試練の年です。あなたの大きな活躍を心から期待しています。

今月の気になるハナシ

学校への塾講師派遣の拡大

和田中で開始された『夜スペシャル』ですが、この特別授業をモデルにした教育が、全国各地で広がりを見せています。その中から、今回は2校をご紹介します。

1. 多忙な受験期に補充授業を

東広島市西条町の松賀中は、放課後の教室に塾講師を招き、生徒の受験対策を重点的に指導してもらって補充授業を開始。『スーパーパワーアップ学習』と題した今回の補充授業は、2月末まで、週3回のペースで行う予定。松賀中の3年生全員が、自由に参加することができ、受講費も無料になっています。

『スーパーパワーアップ学習』には、同市内の個別進学塾から、無償で講師が3～5人派遣されます。英数国の3教科を、生徒の希望するレベルなどに応じて、クラス分けを行い、指導していきます。

松賀中の校長は、「生徒の学力向上はもちろん、講師の指導法に触れた教諭が、今後の指導に参考にしてもらえれば」と現在の状況を歓迎しています。また、市教委も「受験時期は教諭も多忙でありがたい」としています。

同市内では、03～05年度にかけ、広島大学の学生が、放課後に勉強を教える「放課後学習チューター」などの実施もありましたが、現役の塾講師が学校で授業を行うのは、今回が初めてのケース。そのため、校長の言葉にもあるように、生徒の受験対策そのものだけでなく、学校教諭が実践的な指導ノウハウを吸収する機会としても、期待されているようです。

2. 全国学力テスト低迷を受け

全国学力テストの2年連続の低迷を受け、和田中校長時代に夜スペを考案した藤原和博氏を、大阪府特別顧問に迎えた大阪府は、より積極的な動きを見せています。大阪府教育委員会は、夜スペをモデルに、小中学校の課外授業への塾講師派遣を計画。今月10日、箕面市の市立西小学校で実際の指導が始まりました。他にも2、3市の教育委員会が導入を検討しており、実施校は、徐々に増える見通しとなっています。

〔西小学校での課外授業初日〕

補習に参加した小学3～6年生の12人が参加した初日は、授業に先立ちガイダンスが実施されました。

「人と比べられることがいやな人は○、そうでない人は×と書き込もう」

講師が、参加した生徒に呼びかけると、生徒が自分の答えを、質問紙(シート)に記入していく。ほかの質問とあわせると、生徒それぞれの性格が分類され、把握することができます。その後、それぞれの生徒に適したノートの取り方や、勉強方法を記したシートが配られました。

「勉強しろ」といわれて頑張る子もいれば、やる気をなくす子もいます。(今回の質問紙をみて)保護者の方にも、それぞれの性格を把握してもらいたい」と担当講師。

3. 府教委の今後の計画は？

府教委は、1塾からの派遣のみの東広島市松賀中と異なり、合計23業者から協力を受けることにしています。市町村教委から要請があれば、放課後無料授業「おおさか・まなび舎」などへの講師派遣を斡旋する予定。和田中の夜スペは、有料特別授業なのに対し、大阪府の場合は、講師への報酬は「まなび舎」の事業費から支払われ、児童生徒側の費用負担はありません。昨年、進学問題等も取り沙汰された大阪府にとって、今回の計画がどのような効果を生み出すか、期待されています。

大阪府特別顧問の藤原和博氏は、「実際に始めてみれば、教員と塾講師が意外に役割分担できることが分かるだろう。和田中の場合、互いの授業の見せ合いをするなど交流も深まった」と今回の実施について話しています。

〔夜スペシャル〕

受験対策を目的に和田中の元PTAメンバーらでつくる「地域本部」が、昨年1月、進学塾「SAPIX」と協力して2年生を対象に1年間の授業を開始。原則、月24,000円の料金や塾講師の派遣に対し、識者らの評価が分かれた。